



## お芋ミーティング～さつまいも どうやってたべる？

R7.11.18

先日、試食をしたお芋をどうやって食べる？と子ども達に尋ねてみると家庭で食べたことのあるメニューや自分たちの知っているさつまいもメニューを数種類教えてくれた子どもたち。もっとさつまいもを使った料理があるかも？とお家の方とどんな調理法があるのか一緒に考えてきてもらうことにしました。

それたべたことないかも！  
おいしそう！



それぞれお家の人と考えてもらったメニューを持ちより別名『お芋ミーティング』でそれぞれお話してもらいました！少し恥ずかしさを感じながらもお家の人と考えてきたメニューをみんなの前で伝え合う子どもたち。

前回あがった意見に加えてまた新たなものが上がりサラダ、ポトフ、大学芋、チップス、スイートポテトなど…たくさんの種類が出る中で「○○くんのもおいしそうだよね！」「やっぱりわたしあれ食べてみたいな」などお友達の意見に触れることでまた新たな発見や考えが生まれます。



後日、「どうやって作るメニューを決めるか」という話題で2回目のミーティングが始まります。

前回上がった中で一番票が多い順に①チップス②スイートポテト③大学芋④てんぷら⑤ポトフ⑥サラダ⑦スティックでした。多数決はあくまでも決め事の一つの手段。結果に行きつくまでとことん話し合ったらどうなるのかな？と思い子どもたちに委ねてみると想像はしていましたが「ぼくは絶対にこれ！」「それはやだな～」と自分の意見を譲れない！という子も…。

保育者が仲裁となり「せっかく食べたい！と思って考えててくれたんだよね」「票が少ないものも食べたい！って思っている子もいるよね」などと一人ひとりの意見を拾いながら話し合いを進めていきました。すると、そんな中Yちゃんが「票が多い順に何個も作るのはどう？」と発言。それを聞いていたお友達も「え！それいいね！そうしたら全部食べられるもんね！」と周りの子もYちゃんの意見に賛成はじめました。

時間をかけながらもみんなの気持ちがまとまりを持ち始めたことやきちんと相手と向き合う姿勢が見られこのよな時間を作り良かったなと改めて感じる場面となりました。

このような決め事一つも大人が決定権を握ってしまえばすぐに決まりますが結果ではなくそこに行きつくまでの経過にスポットをあてました。とことん時間を使い子どもたちで話し合い、時にはぶつかり、解決策を見出していく…対話を通して、相手の思いに触れ共感したり、自分の意見を持ったりすることで子どもたち一人ひとりの持つ【主体】をこれからも大事にしていきたいと思います。